

第3章 体感的治安感の動向

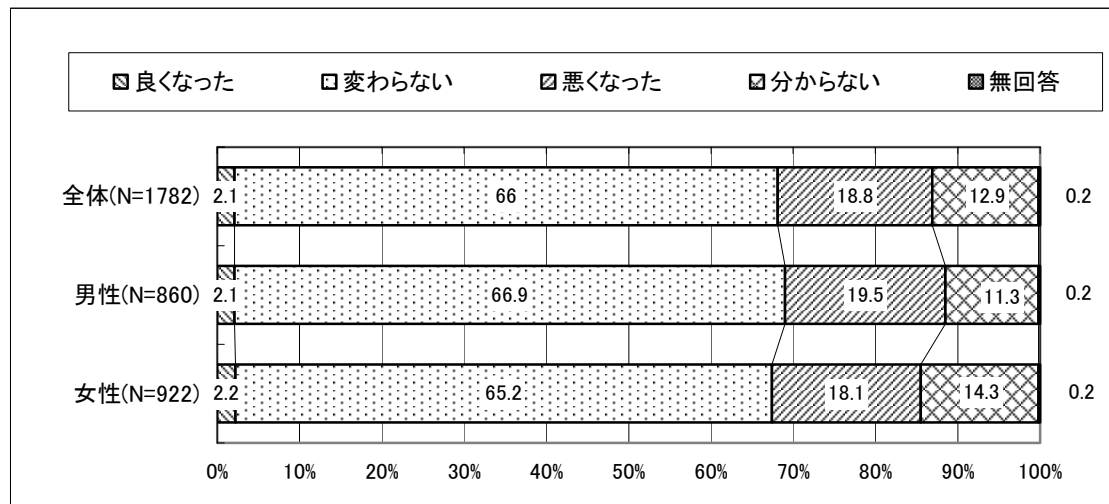
住んでいる地域において、日常的に感じている犯罪に関わる治安感である一般に「体感的治安感」といわれる感じ方、および近年の我が国全般に対する治安感を調べた。

1. 住まいの地域に対する体感治安

設問「あなたが今お住まいの地域は1年前と較べて、治安がよくなったと思いますか、悪くなったと思いますか」と尋ねた。選択肢は、「良くなった」「変わらない」「悪くなった」「分からない」の4つである。

回答分布は図Ⅱ－3－1に示した。

図Ⅱ－3－1 地域に対する体感的治安感



全体では66.0%が変わらないと答え、大多数の人はこの1年間では変化なしとみているが、その一方、良くなったが2.1%に対し、悪くなったが18.8%になった。全体的動向は、住んでいる地域に関しては、さほど変化なしとはみえても、変化に敏感な人は悪い方に変わったと見る人がほとんどで、良い方に変わったと見る人はまずいない。

以上の傾向は、男女間でもほとんど一致している。年齢別でも一致している。

都市規模別でも違いがなく、大都市あるいは町村で特に悪くなったということはない。

警察管区別では、悪くなった回答率が比較的高かったのは、中部23.8%、関東20.7%、

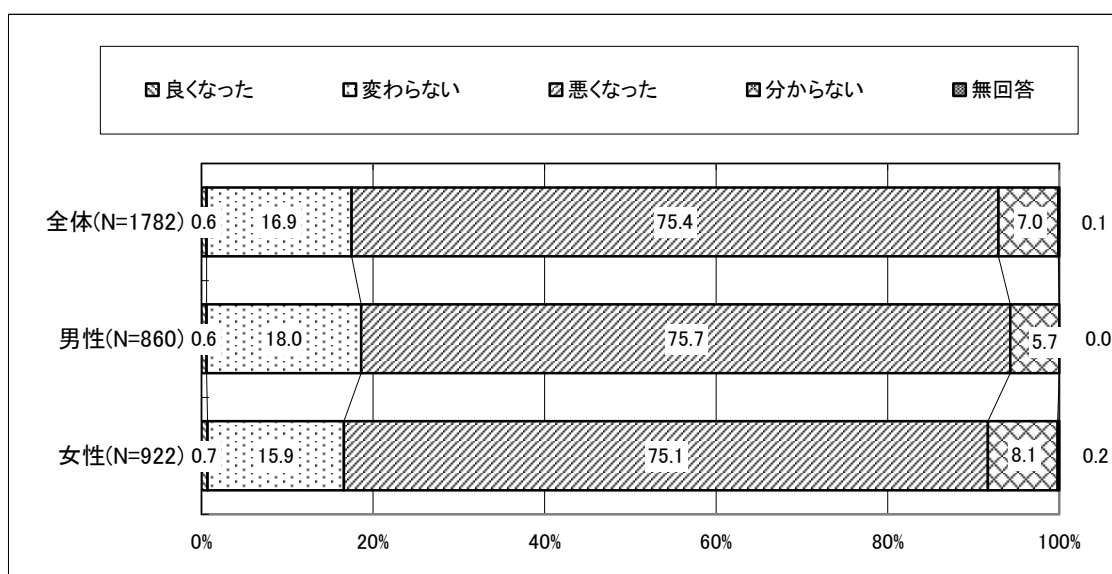
東京 20.5%、逆に同回答が低いのは、北海道 10.7%、四国 12.5%、東北 15.9%、等である。

2. 日本全体に対する体感治安

設問「日本は1年前と較べて治安が良くなったと思いますか、悪くなったと思いますか」と尋ねた。選択肢は前問と同じ4件法である。

回答分布は図Ⅱ－3－2に示した。

図Ⅱ－3－2 日本国に対する体感的治安感



全体では 75.4%と大多数が悪くなったと答え、変わらないが 16.9%だった。良くなったの答えは 0.6%で、ほとんどいない。自分の地域に対しては、変わらないが多かったが（ただし全体傾向としては悪くなったに傾いていた）、日本全体に対しては、完全に悪くなったとの判断になっている。

以上の傾向は、男女間で全く一致している。年齢別でも変化しない。また、都市規模別でも違いはない。

管区別では、悪くなったという回答が比較的高かったのは、中部 81.8%、中国 80.0%、関東 76.0%など、逆に低かったのは北海道 65.5%のみで、その他は全て 70%強になっている。

なお以上で尋ねた、1年前と比べた、住まいの地域に対する治安感と、日本全体に対する治安感が悪化した管区別変化量の序列をみると、中部、関東がともに上位に、北海道が下位になるなど、かなり相関する傾向を示している。すなわち人々の地域に対する治安感は、日本全体に対する治安感と連動する傾向がある。